

# 伸びゆく未来のシンボル

〜岡本太郎作「夢の樹」新鹿沼駅前へ〜



## 《夢の樹》

制作年 1983年  
素材 アルミニウム・  
鋳造  
サイズ 本体高さ4m  
重量 1.5t

たわわに実る「夢の樹」  
まちの玄関口へ

日本のアート界に大きな功績を残した故・岡本太郎氏。鹿沼市には、県内で唯一岡本氏が制作したパブリックアート「夢の樹」が存在します。

「夢の樹」は、市民文化センターのシンボルとして、長年親しまれてきました。市は、岡本太郎生誕100周年にあたる昨年、この素晴らしい財産をより多くの人に鑑賞してもらうために、移設を決定しました。

3月7日、専門家によるお色直しを終えて、市の玄関口である東武新鹿沼駅の東口駅前広場に移設しました。新鹿沼駅の乗車人数は、年間約65万4千人（平成21年）。より一層、みなさんに親しんでいただけることでしょう。

人間岡本太郎を  
体感しよう

新たな「夢の樹」は、駅を出て真っ先に目にする場所に根を張って、訪れる人を出迎えているようです。

岡本氏は「芸術は、大衆のもの」という芸術観を持っていました。

# 岡本太郎が見た鹿沼 ～「夢の樹」ができるまで～



東武新鹿沼駅前に立つ岡本太郎氏

岡本氏は、モニュメント制作にあたり鹿沼を訪れています。岡本氏の目に、鹿沼はどのようなに映っていたのでしょうか？ そのヒントになる色紙が残っています。「鹿沼の緑」：簡潔ですが、私たち市民にとって、とても誇らしい言葉です。



1



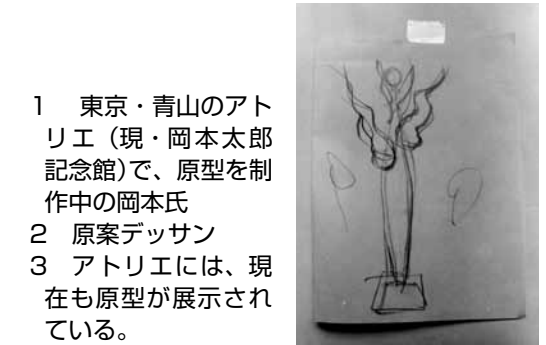
杉並木では、杉の根を盛んに撮影

岡本氏が「夢の樹」を作したのは昭和58年（1983）、72歳のときです。すでに、大阪万国博覧会のシンボルタワー「太陽の塔」の制作（昭和45年）や「芸術は爆発だ」などにより、日本中の注目を集め、国民のスターとなっていました。



道端の石仏にも目を向ける

鹿沼を訪れた岡本氏は、杉並木の杉の木の根に興味を持ち、車を止めて、盛んにカメラのシャッターを押していたそうです。道端の小さな石仏にも目を向け、カメラに収める…。下野新聞社の取材には「鹿沼のモニュメントは樹木の



2

- 1 東京・青山のアトリエ（現・岡本太郎記念館）で、原型を制作中の岡本氏
- 2 原案デッサン
- 3 アトリエには、現在も原型が展示されている。



3

そのため、全国約70カ所にパブリックアート作品を制作しています。こうした作品に接することで、絶えず創造し、挑み続けた人間・岡本太郎を感じる事ができます。  
みなさんもぜひ、駅前へ足を運んで、岡本太郎を体感してみませんか。

イメージを作品化したもので、仮題は『夢の樹』。宇宙に向けて樹が、人間が、そして生命力が開くことをイメージした（昭和58年10月19日）と答えています。

「ゆたかに膨らみ、天空へと向かってゆく夢が、たわわに実る様子を表しているのでしょうか」（『パブリックアートマップ 岡本太郎のいる場所 首都圏版』より 川崎市岡本太郎美術館）

「夢の樹」は、ふるさと鹿沼の豊かな緑の象徴です。そして、私たち市民が宇宙に向けて、未来に向かって、伸びゆく象徴なのです。